船庶人乘泭、註、併木以渡、泭、音桴、疏此釋尊卑橋船之異制也、(中略)維舟以下、則水上浮而行、但船有多少、爲等差耳、

〔段注說文解字十一上水〕泭編木以渡也、周南、江之永矣、不可方思、傳曰、方、泭也、卽釋言之舫泭也、爾雅字多從俗耳、釋水曰、大夫方舟、士特舟、庶人乘泭、方言曰、泭、謂之簰、簰謂之筏、筏秦晉之通語也、廣韵曰、大曰簰、曰筏、小曰泭、按論語、乘桴于海、假桴爲泭也、凡竹木蘆葦、皆可編爲之、今江蘇四川之語曰簰、从水付聲、芳無切、古音在四部、

〔玉篇十八舟〕舫甫望反、爾雅、舫、舟也、郭璞曰、併兩舟也、又曰、舫柎也、郭璞曰、水中簰筏也、說文、舫船師也、明堂月令曰、舫人習水者也、野王案、說文以方舟之舫爲方字、在方部、〔同十八方〕方甫芒反、(中略)毛詩、江之永、不可方思、傳曰、方柎也、野王案、柎編木以渡水也、(中略)說文、方併船也、象兩舟、汸說文亦方字也、野王案、此汸謂泭也、併船也、旒何唐反、說文方舟也、天子造舟、諸侯維舟、大夫方舟、士特舟、字書或爲航、字佐舟部也、

〔續日本後紀十仁明〕承和八年四月庚申、從四位下百濟王慶仲卒、○中略嘗自東國入都、路到渡頭爭船處、有桀黠人、率黨而來、驅逐諸人、不許俱渡、諸人畏之、不敢抗論、慶仲一揚鞭打之、額皮剝垂而覆面、惑而仆伏、其黨亦退、諸人大悅、棹舟競渡、

〔藤河の記〕笠置川をば舟にてわたる、ならよりむかへのもの、きたるによりて、いがのをくりをば、これより返しぬ、

〔覽富士記〕くゐせ川わたるとて

夕されば霧たど〳〵し河の名のくゐせもとめて舟やつながん

〔正廣日記〕十五日○文明五年八月大江といふ所より舟にのり、いらごのわたりとて、すさまじき所をこし侍るに、こよひは十五夜なりけり、

〔北國紀行〕初秋の比、○文明十九年よぶかき道をくるに、入間の舟渡りまで見送る人、あまた侍りしに、角田川の朝ぎり、いづこをほとりともしらず、

〔信長公記首〕五月○永祿四年十三日、木曾川飛驒川之大河、舟渡し三つこさせられ、西美濃へ御働、其日はかち村に御陣取、

〔名所方角抄山城〕京邊土名所　西分